

平成 31 年度 新しい共通教育について学生と教員が語り合う会 「フクトーク」 報告書

主催 福山大学 大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学修の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなど、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の一層の充実を目指している。

●日 時： 令和元年年 12 月 11 日（水）、16 時 30 分～18 時

●場 所： 大学会館 3F、ICT 教室「CLAFT」

●テ ー マ： 地域を創造する 地域について学ぶ授業を提案してみませんか

●参加学生

経済学部 7 名、人間文化学部 6 名、工学部 3 名、生命工学部 7 名

計 24 名 計 4 グループ

●プログラム

- 16:30 開会の挨拶
- 16:33 全体説明
- 16:40 自己紹介（アイスブレイク） & 三役決定
- 16:50 ディスカッションの説明
- 16:55 SGD（スモール・グループ・ディスカッション）
- 17:35 グループ発表
- 17:50 講評・閉会の挨拶
- 17:55 集合記念撮影・アンケートの実施
- 18:00 解散

●スタッフ

大塚大学教育センター長、中尾教授、竹盛准教授、劉准教授、小野准教授、若松講師、Tang 助教、記谷助手、日暮助手

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で7回となった。今回のテーマは、昨年度に引き続き教養教育科目 F 群の充実を目指し、「地域を創造する」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去に開催された内容などを載せた「フクトーク」のホームページも開設した。また、過去の「フクトーク」に参加した経験のある学生が司会を担当した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は4グループに分かれてSGD（スモール・グループ・ディスカッション）を行った。会場は、大学会館 ICT 教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、まず、大塚大学教育センター長が開会の挨拶として趣旨説明を行ったあと、総合司会による全体説明としてSGDの意味、プロダクト、ルール、役割の説明を行った。続いてSGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、発表者をグループ内で決めた。そして、現在行われている教養教育科目 F 群の地域学の現状等を確認し、プロダクトとして、地域について学ぶ意義を考え、それを実現する授業を提案してほしい旨を告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それをもとにプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業を合わせて40分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。4つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

- (ア) 新たに味わう食文化
- (イ) 他県のふりみて我町なおせ
- (ウ) 地域“ミライ”プロジェクト ～みんなでビジネスやろーぜ！！～
- (エ) 超短期インターン

それぞれの①地域について学ぶ意義と、②提案内容は、次の通りであった。

- (ア) ①・今ある文化を学び新しい文化を発信する
- ②・座学（地域の人との交流準備）
 - ・地域の人に話を聞く
 - ・グループでまとめる
 - ・発表（参加自由）
 - ・ふり返り
- (イ) ①・他県を学び、地元を活性化する
- ②・他県の町おこしの実例を知る、来てもらう
 - ・県内県外者の意見交流
 - ・まとめた意見を市に提案
- (ウ) ①・学んだことを生かす
- ②・地域について学ぶ
 - ・現場に行き見学・体験
 - ・目標・課題設定
 - ・実現
- (エ) ①・地域の中小企業を知ることができる
 - ・就職の選択肢が増える
 - ・地域の人口減少の抑制
- ②・講義内疑似インターンシップ

昨年に引き続き全体的に体験、実習を通じて地域を学ぶという提案が多くを占めたが、昨年とは異なる試みとして、まず「地域について学ぶ意義」を考えてもらい、それを実現するための授業を考えてもらうことで、議論が活性化したように見受けられた。学生諸君に、自分たちが地域に何を求めるかだけでなく、地域が自分たちに何を求めるかという、社会性の広がりが見えたのも大きな収穫であった。また、会終了後に行ったアンケートの「今回のフクトークで提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。」では、「超短期インターン」が多い票を集めた。昨年も「地元企業について学ぶ」が多い票を集めたので、就職に対する意識の高さの表れかもしれない。このような意識の高まりが、＜超短期インターン＞から「備後地域学」、「BINGO OPEN インターンシップ」、あるいは「キャリア教育」等に波及し、授業間の相乗効果があればと期待している。

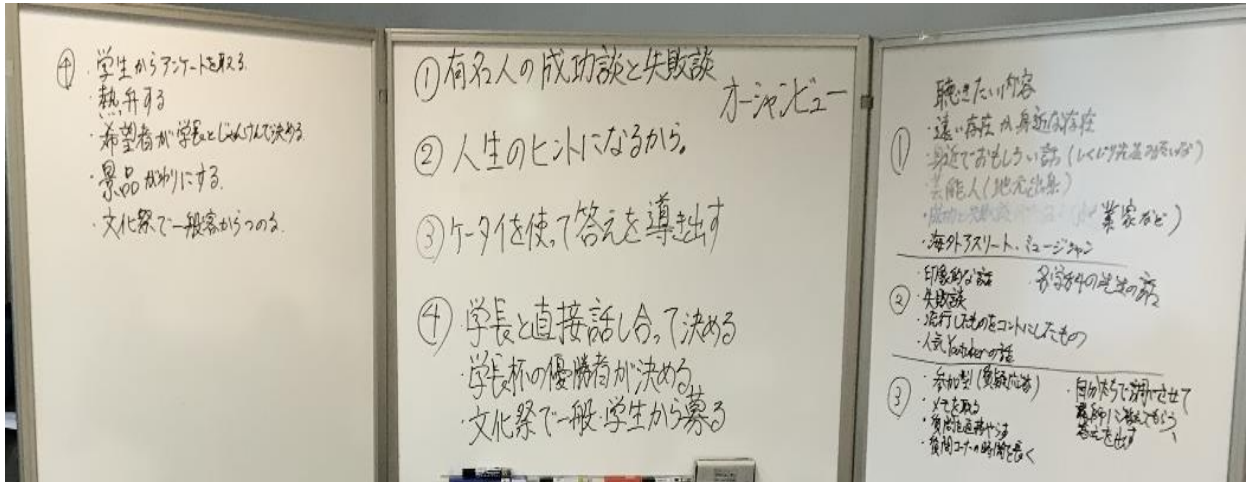
アンケート調査の結果から、参加学生のほとんどが「フクトーク」での話し合いが有意義であった、SGD への参加も良好であった、グループ人数が適切であった、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく仕組みを求めている、といった点に賛意を示していたことが分かる。次回参加への可能性については、是非参加したい、内容によっては参加したい、要請があれば考える、を合わせれば 77%であった。また、「フクトーク」開催時期・時間については、前回同様、平日の 5 時間に行ったが、これについては、75%の学生が適切であったと回答し、ディスカッションの時間が適切であったという問いに対して、もう少し長い方が良かったという回答が 72%あった。

大学教育センターでは、今回のテーマについてさらに議論を深めるために、来年度も同じテーマで「フクトーク」を開催することを検討している。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げます。特に、活発な議論を展開してくれた参加学生諸君と、何度もしハーサルを繰り返し、当日見事な司会ぶりを発揮してくれた 2 年生の F 君と T 君に心より感謝します。

●プロダクト (ア)

タイトル : 有名人の成功談と失敗談



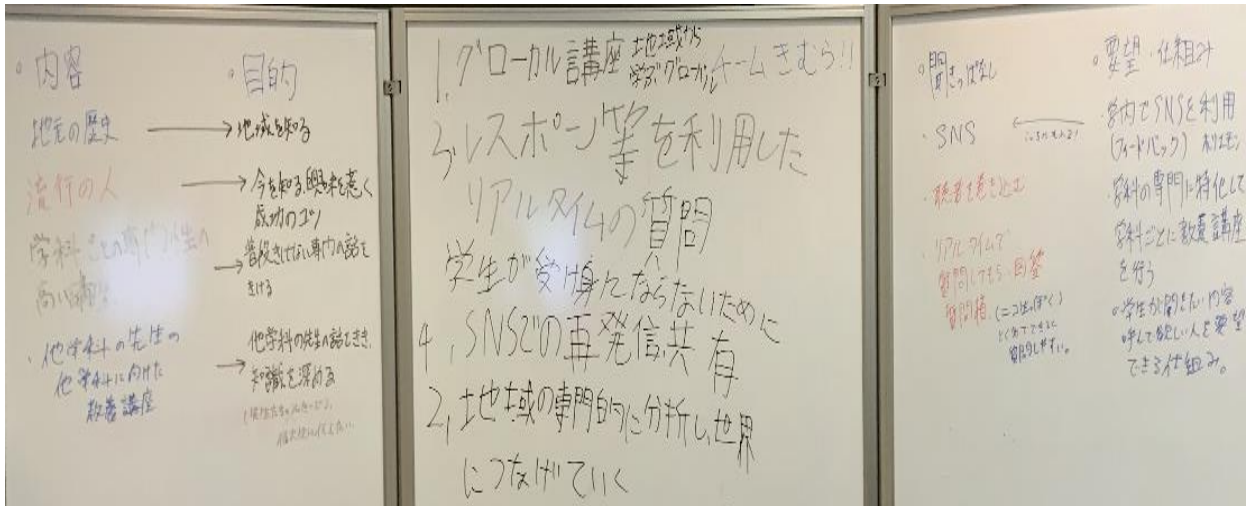
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (イ)

タイトル : グローカル講座 地域から学ぶグローバル



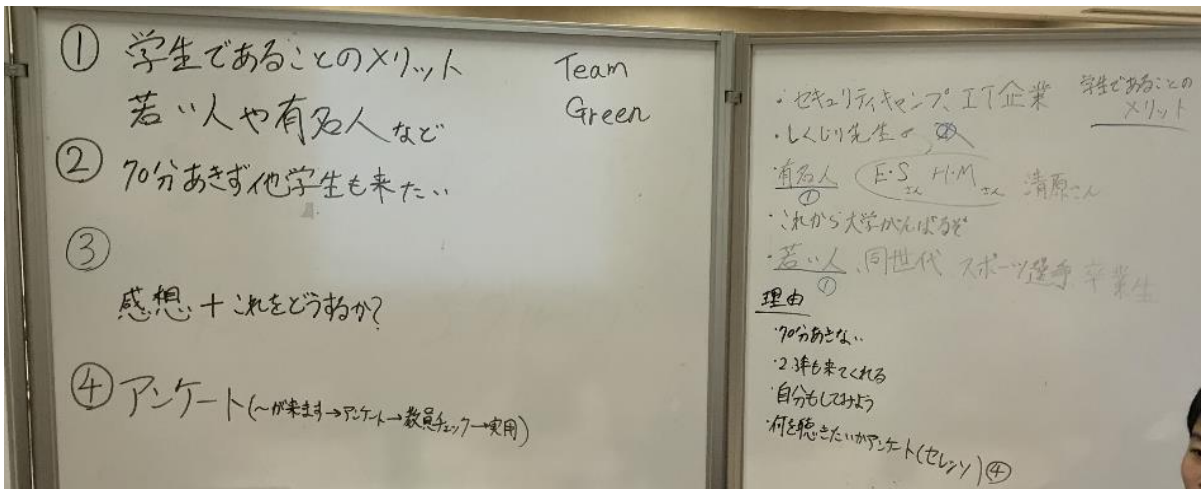
メモ (左)

まとめ

メモ (右)

●プロダクト (ウ)

タイトル : 学生であることのメリット 若い人や有名人など

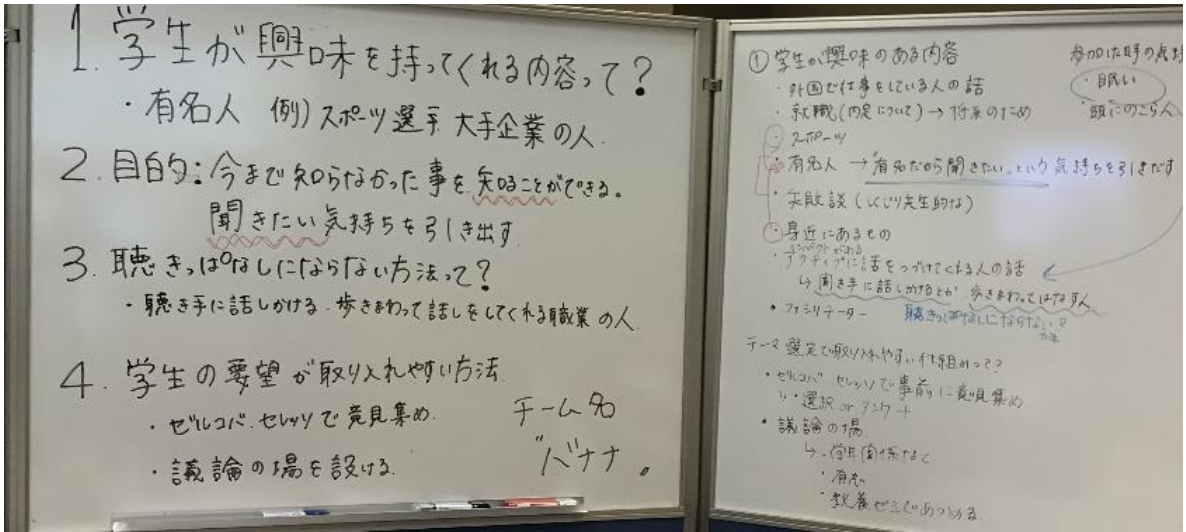


まとめ

メモ (右)

●プロダクト (エ)

タイトル : 有名人 例) スポーツ選手、大手企業の人



まとめ

メモ (右)



開会の挨拶



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)



発表

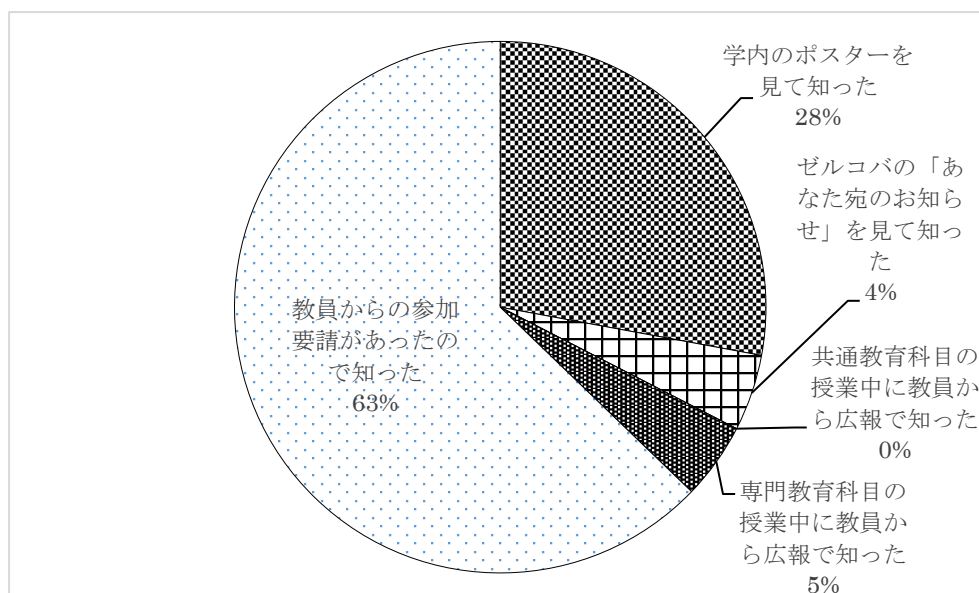


講評

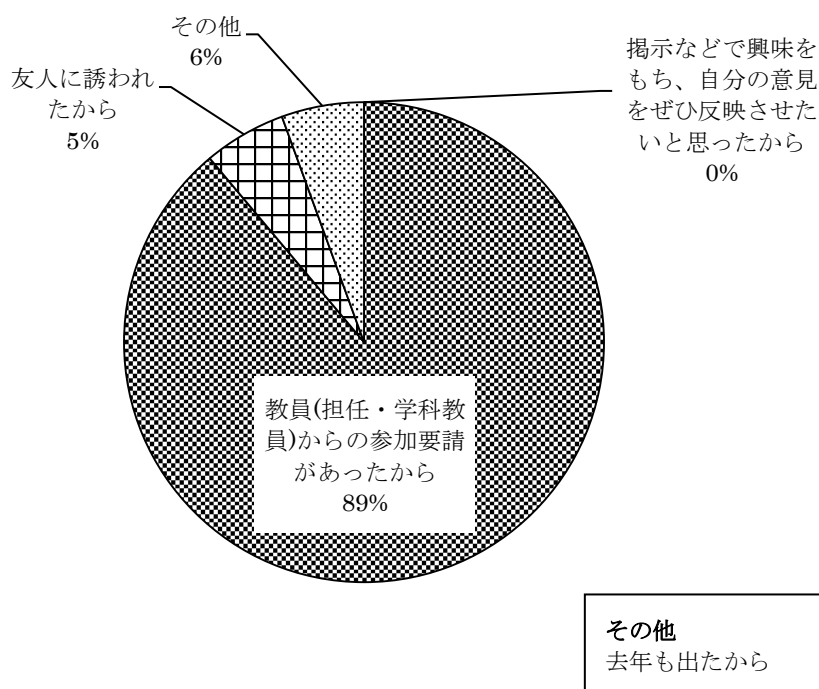
フクトーク参加者 アンケート集計結果

フクトーク参加者数 23 名、 アンケート記入者数 23 名

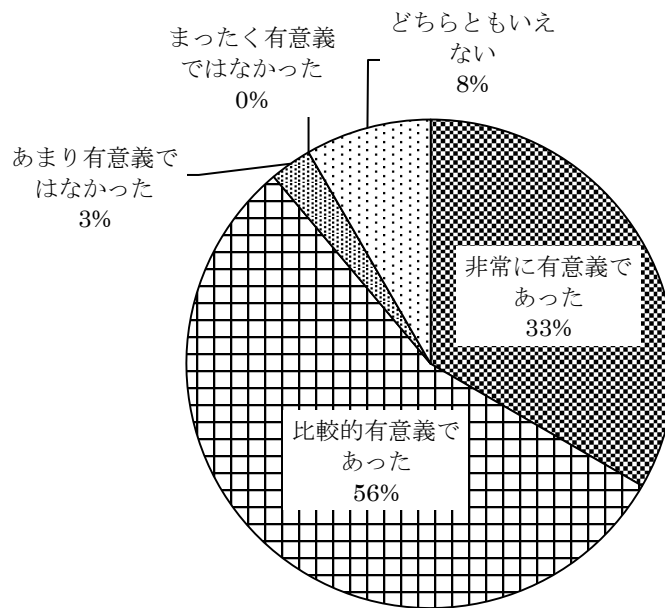
① フクトークをどのようにして知りましたか。(複数回答可)



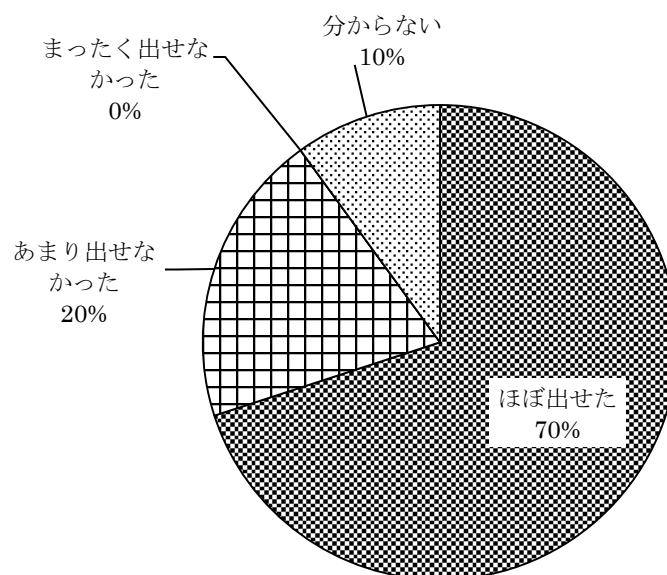
② フクトークへの参加の経緯を教えてください。



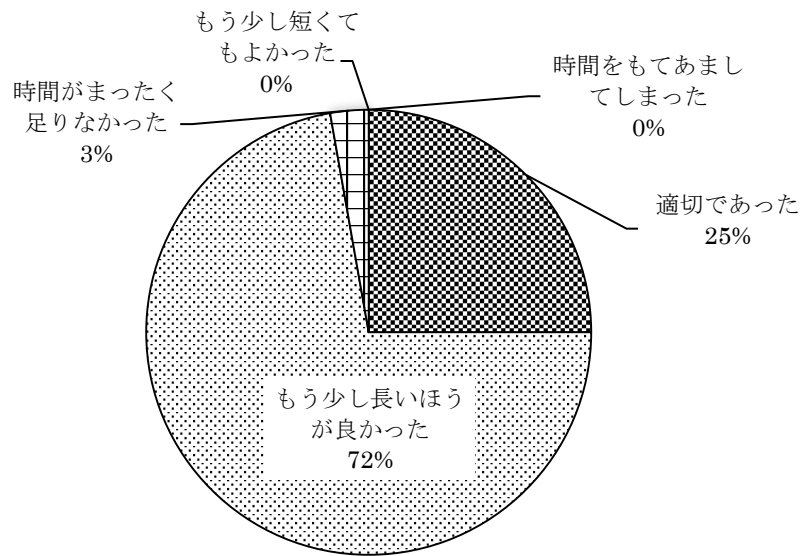
③ あなたにとって、フクトークでの話し合いは有意義でしたか。



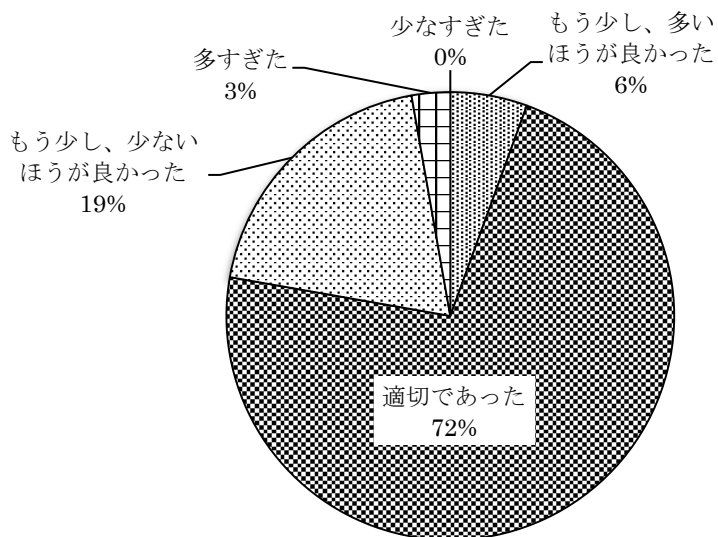
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



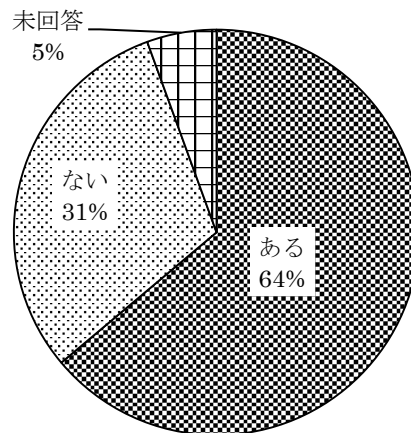
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

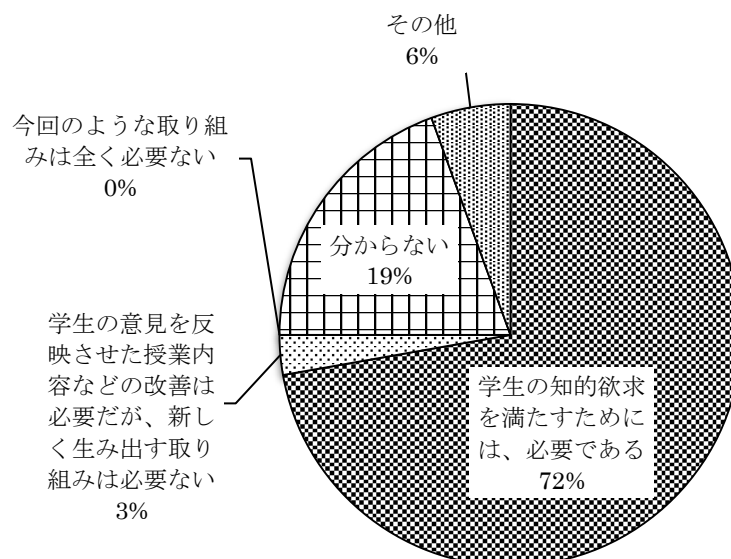


⑦ 今回のフクトークで提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。

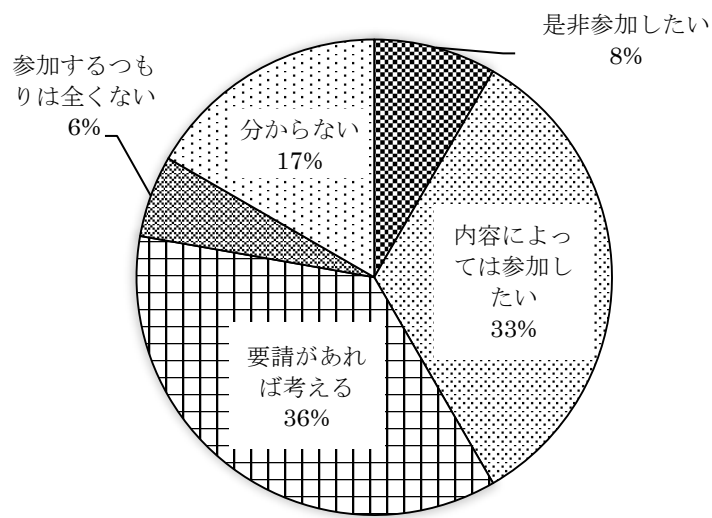


「ある」と答えた学生の提案など	人数
超短期インターン	9
地域“ミライ”プロジェクト～みんなでビジネスやろーぜ！！～	5
新たに味わう食文化	3
他県のふりみて我町なおせ	2
全て	1

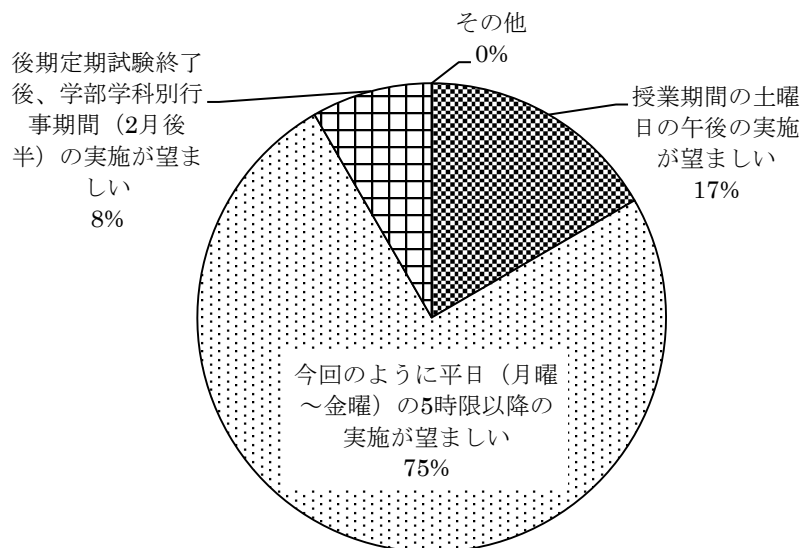
⑧ 今回、「地域を創造する授業」について議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく取り組みは、今後も必要と思いますか。



⑨ 次回のフクトークに参加したいと思いますか。



⑩ フクトークの開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑩ フクトークに参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 面白かったです。
- 生徒の意見を取り入れるというのは、新しい発想だと思いました。
- 寒かった。楽しかったです。
- 他の学科や学年の方々と知り合えて楽しかったです。
- 楽しかったです。(複数回答)
- ファシリテーションがんばって。
- もう少しグループが多くても良いと思います。
- もう少し自主的に参加できるイベントであれば良いと思った。
- 学科や学年が違う人とグループでトークできて良かった。
- 1年生の参加者がもう少し多くいた方が良いと思った。
- 久しぶりにグループディスカッションする機会をありがとうございました。
- 知らない学生たちとディスカッションできて良かったです。
- 自分の知らないことをたくさん理解する場となった。
- 初めは言われたから来ていましたが、来てよかったなと思いました。いい体験ができました。
- 本気でみなさん考えていて、すごかった。
- 違う歳の人と交流を持てて良かったです。